

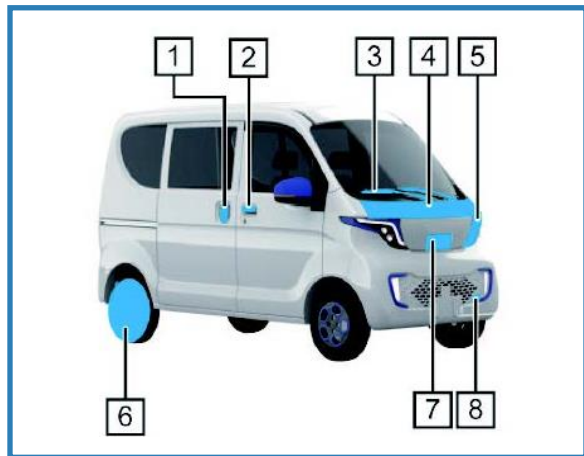


ASF株式会社

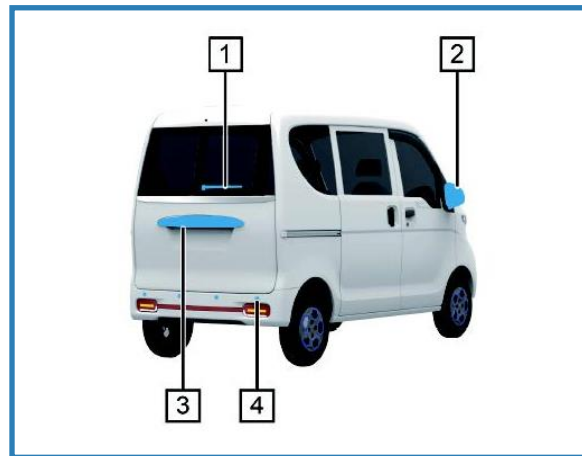


ASF 2.0 クイックガイド (第五版)

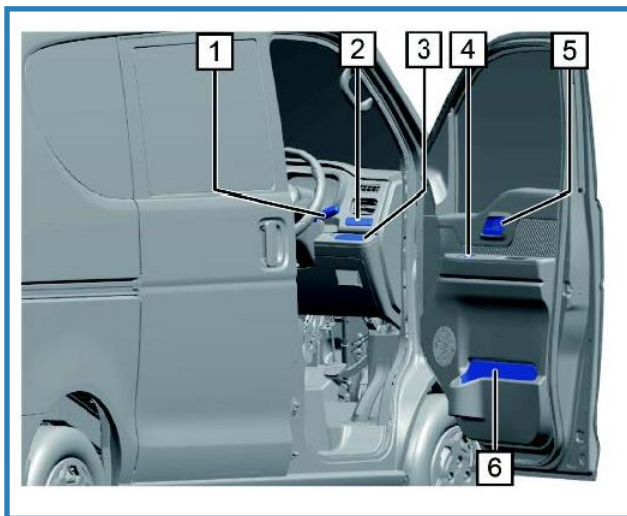
本書は、ASF株式会社のASF 2.0をご使用いただく上で特に重要な情報をまとめた【クイックガイド】です。
詳しくは、別冊の取扱説明書をご覧ください。



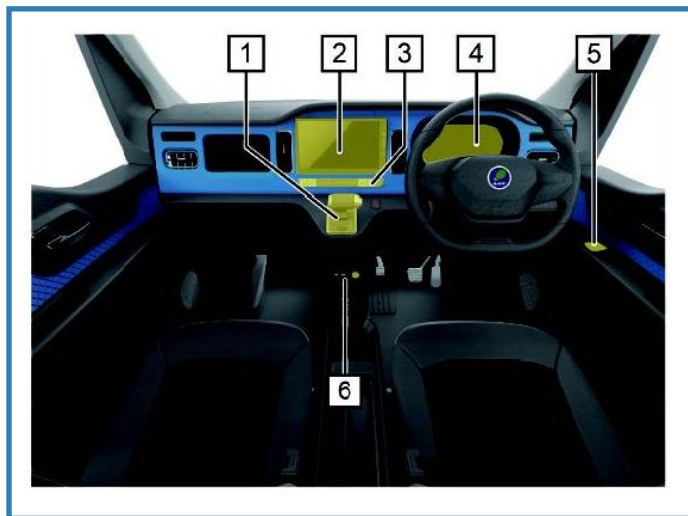
1. スライドドアハンドル
2. 前席ドアハンドル
3. ワイパー
4. ボンネット
5. ヘッドライト
6. タイヤ、ホイール
7. 充電ポートカバー
8. けん引フック



1. リアワイパー
2. サイドミラー（ドアミラー）
3. バックドアハンドル
4. 超音波センサー



1. ライトスイッチレバー
2. マルチファンクションスイッチ
3. ライトコントロールスイッチ
4. ドアロック、パワーウィンドウスイッチ
5. 前席ドアハンドル
6. ドアパネルの収納ボックス



1. ギアセレクトーレバー
2. マルチインフォメーションディスプレイ
3. 空調コントロールスイッチ
4. メーターパネル
5. パワーウィンドウスイッチ
6. USBポート (2個)、12V電源ソケット

安全上の注意事項

高電圧の注意事項

この車には、直流の高電圧が作用する部位があります。高電圧の警告ラベルが貼り付けられている部品を脱着しないでください。高電圧部品の周囲で作業するときは、感電を避けるために直接触れないでください。



高圧危険

- 充電ポートや充電に関係する部品の分解や改造を行わないでください。正常に充電できなくなったり、車両火災の原因になります。
- 高電圧バッテリー（動力バッテリー）の脱着や分解を行わないでください。衝突事故の救援作業であっても、レスキューによる高電圧バッテリーの取り外しや切断作業は禁止します。バッテリーハウジングの変形や内部物質の漏れは、深刻な二次災害につながります。
- 橙色（高電圧規格）のケーブルには大電流が流れます。ケーブルの切断や、コネクタの抜き差しは厳禁です。
- 充電プラグを抜き差しするときなど、充電作業者の近くにお子さまを近づけないでください。

一般注意事項

1. 車両の電気装備は、低電圧（12V）システムと高電圧システムがあります。ライト、ルームランプ、メーターパネル、オーディオなどは低電圧システムです。一方で、走行モーターやエアコンコンプレッサーなどは高電圧で作動します。
2. 高電圧システムの部品には警告ラベルが貼り付けられています。感電の危険があるため、高電圧ラベルの部品や橙色の高電圧ケーブルには触れないでください。
3. 車両電装品の分解や改造を行わないでください。感電や車両火災の原因になります。
4. 衝突事故や路上故障の際は、安全を確保できる場所に車を止めて、車両の電源をオフにしてください。緊急停止したことが他の道路利用者にわかるように三角表示板などで知らせ、直ちにASF株式会社に連絡してください。臭いや煙で車両火災の疑いを感じたら、直ちに停車してパーキングブレーキを作動させ、車両の電源をオフにして車外に脱出してください。

高電圧バッテリー（動力バッテリー）は、周辺温度の影響を受けます。バッテリーの性能は適正な温度環境下で維持されます。



注 意

- 高電圧バッテリーの性能を長期にわたって維持するために、高温または低温の環境下に車両を長期間放置しないでください。
- 航続可能距離（1回の満充電で走行できる距離）は、車両メーカーが定める条件下で測定されたものです。周辺温度の変化はバッテリー容量に影響を与えます。一般に、気温が低いとバッテリー容量も少なくなり、走行できる距離が短くなります。これはバッテリーの正常な現象であり、不具合ではありません。
- 高電圧バッテリーの修理や脱着には、専門知識と技術が必要です。ASF株式会社が承認した整備工場でのみ作業が認められています。
- 車両を長期保管する場合は、高電圧バッテリーの充電レベルを半分程度にします。1か月に1回の頻度でバッテリーを定期的に充電し、充電レベルを60%程度に回復させてください。長期間放置すると過放電になり、バッテリーが正常に機能しなくなることがあります。



警 告

- 危険回避を除いて、急発進や急加速、急なステアリング操作など「急」の付く操作を行わないでください。衝突事故につながるだけでなく、乗員のケガや車両が損傷する原因になります。
- 凹凸の多い道路、非舗装路、ぬかるみ、積雪路では慎重に走行してください。
- 走行時は、すべての乗員がシートベルトを着用してください。シートベルトの役割は、万一のときに乗員が投げ出されることを防ぐだけではなく、エアバッグが正しく機能するためにも重要です。
- 過積載は法令違反となるだけではなく、車両を損傷することにつながります。

シートベルト

この車は、運転席と助手席に3点式シートベルトを備えています。

運転中は必ずシートベルトを着用してください。助手席の乗員がシートベルトを着用したことを確認してから、車を発進させてください。

シートベルトの未着用は法令違反になるだけではなく、万一のときに重大な傷害を負うリスクが大幅に高まります。また、エアバッグの保護効果を発揮することができません。



シートベルト着用忘れ警告灯

この車は、シートベルトの着用忘れを知らせる警告灯を装備しています。運転席と助手席の乗員がシートベルトを着用していない場合に点灯します。

- 車両の電源がオン（発進できる状態）で、速度が約10km/h以下のとき、シートベルトを着用するまで警告灯が点灯します。
- 速度が約10km/hを超えると、警告灯が点滅するとともに警告音が鳴ります。一定時間が経過してもシートベルトを着用しなかった場合、警告灯が常時点灯に変わります（警告音は停止します）。

エアバッグ



運転席と助手席の前面にエアバッグを装備しています。

運転席エアバッグはステアリングホイール中央に組み込まれ、助手席エアバッグはダッシュボードに収納されています。

エアバッグ収納部には「AIRBAG」の刻印があります。

万一の車両衝突時、エアバッグの制御ユニットが一定以上の衝撃を検知すると、エアバッグに電気信号を送ります。この電気信号によりエアバッグが点火され、ガスの圧力でエアバッグが瞬時に展開します。

キー

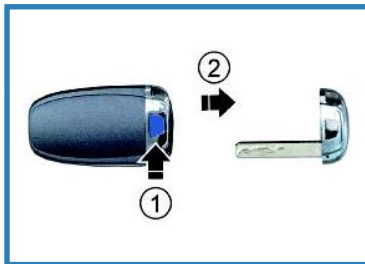
この車は、2本のリモコンキーが付属しています。リモコンキーには、非常用のメカニカルキーが収納されています。

リモコンキー



1. ロックボタン
2. ロック解除ボタン
3. ドアミラークローズボタン

メカニカルキー



1. メカニカルキーのロック解除
2. メカニカルキーを引き抜く

リモコンキーの電池残量が不足したときなど、メカニカルキーを使用して運転席ドアの解錠と施錠ができます。

メカニカルキーを使用したいときは、リモコンキーの裏にあるメカニカルキーのロックを解除して引き抜きます。

メカニカルキーの使用後は、しっかりとロックされるまでリモコンキーに差し込みます。

注意

車両の盗難防止装置がスタンバイしている状態で、メカニカルキーを使ってドアを開けると、盗難防止警報が作動します。

知識

リモコンキーの電池残量不足や、リモコンキーが正常に機能しない場合、メカニカルキーを使って運転席ドアの解錠と施錠ができます。

リモコンキーでの解錠と施錠



車両がロックされているときに、リモコンキーのロック解除ボタンを押すと解錠されます。このときターンシグナル（ウインカー）が2回点滅します。

車両の電源がオフで、すべてのドアが閉まっているとき、リモコンキーのロックボタンを押すと車両がロックされます。このときターンシグナル（ウインカー）が1回点滅します。

自動再ロック機能

リモコンキーで解錠した後、約30秒以内にいずれのドアも開けなかった場合、自動的に再施錠されます。

メカニカルキーでの解錠と施錠



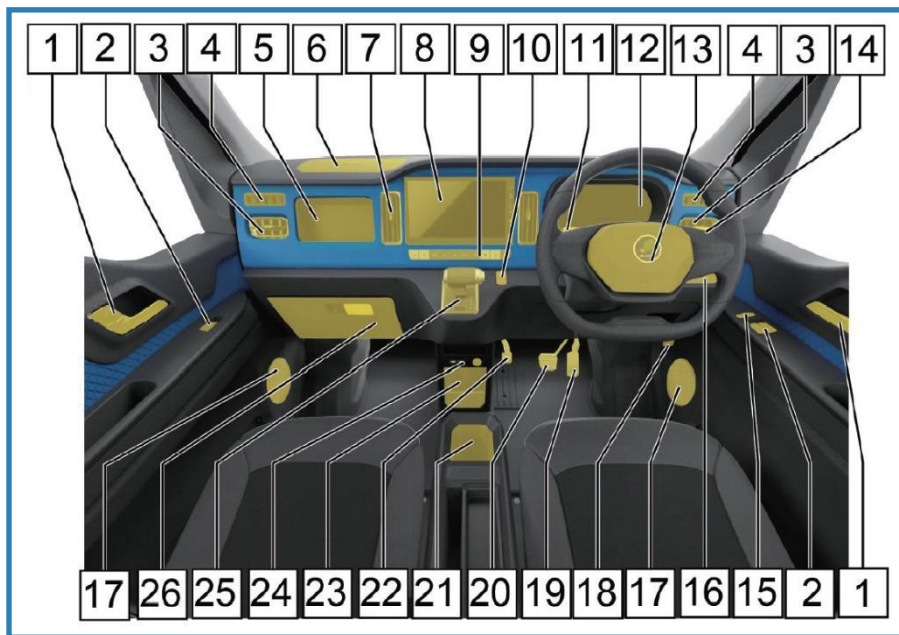
運転席ドアにキーシリンダーがあります。

- キーシリンダーに差し込んだキーを時計方向に回すとドアが解錠されます。
- キーを反時計方向に回すとドアが施錠されます。



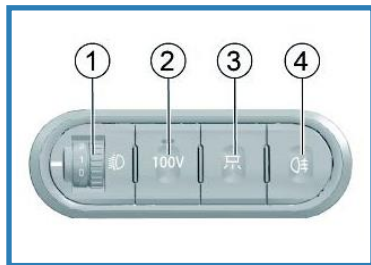
注 意

防犯のため、車から離れるときは必ず施錠してください。



1. ドアハンドル
2. パワーウィンドウスイッチ
3. 送風口
4. デフロスターベンチレーション
5. コンソール収納ボックス
6. 助手席エアバッグ
7. 送風口
8. マルチインフォメーションディスプレイ
9. 空調コントロールスイッチ
10. ハザードランプスイッチ
11. ワイパーレバー
12. メーターパネル
13. ホーン、運転席エアバッグ
14. ライトスイッチレバー
15. 集中ドアロックスイッチ
16. ライトコントロールスイッチ
17. スピーカー
18. ボンネットオープナー
19. アクセルペダル
20. ブレーキペダル
21. カップホルダー
22. パーキングブレーキペダル
23. センターコンソール収納ボックス
24. USBポート (2個)、12V電源ソケット
25. ギアセクターレバー
26. グローブボックス

ライトコントロールスイッチ



1. ヘッドライトレベライザー

ダイヤルを回してヘッドライトの高さ（照射角度）を調整します。

2. 100V電源スイッチ

非常用の100V電源システムがオンになります。

3. 大型LED荷室ランプスイッチ

大型LED荷室ランプが点灯／消灯します。

4. リアフォグランプスイッチ

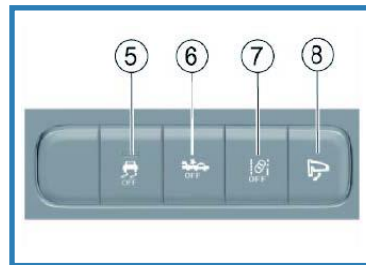
ヘッドライトが点灯しているときに押すと、リアフォグランプが点灯／消灯します。



注 意

リアフォグランプは、霧や強い雨で運転視界が悪いときだけ使用してください。

マルチファンクションスイッチ



5. ESCオフスイッチ

ESC機能がオフになります。再度押すとオンになります。



警 告

通常はESCをオフにしないでください。ESCが作動して、ぬかるみから脱出できない場合など、緊急時のみESCをオフにしてください。

6. 衝突被害軽減ブレーキオフスイッチ

スイッチを2回押すと衝突被害軽減ブレーキ機能（前方および後方）がオフになります。再度押すとオンになります。

7. 車線逸脱警告オフスイッチ

警告機能がオフになります。再度押すとオンになります。

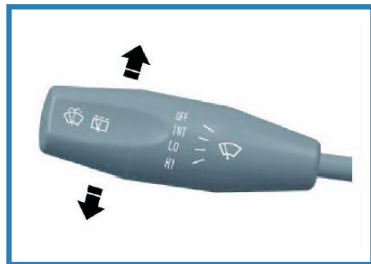
8. ドアミラースイッチ

スイッチ操作でドアミラーを折りたたむことができます。

知 識

リモコンキーのドアの解錠操作に連動してドアミラーを自動的に広げる機能もあります。

フロントワイパー



ワイパーレバー

1. OFF: 停止
2. INT: 間欠作動
3. LO: 低速作動
4. HI: 高速作動

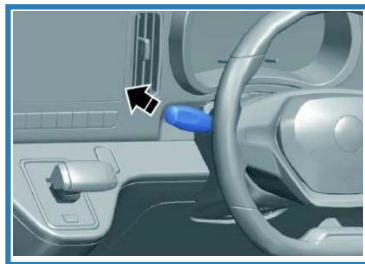
ウォッシャー (フロント)



ワイパーレバーを手前に引くと、レバーを引いている間、ウォッシャー (フロント) が作動します。

ウォッシャー (フロント) の作動中はフロントワイパーが払拭動作を行います。ウォッシャー (フロント) の停止後は、フロントワイパーが数回作動して停止します。

リアワイパー／ウォッシャー (リア)



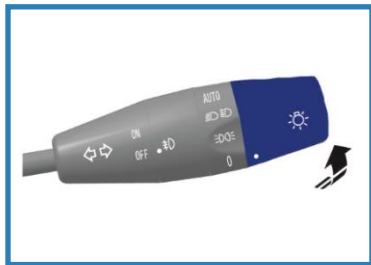
バックドアが閉まっている状態でワイパーレバーを前方に押すと、レバーを押している間、リアワイパーとウォッシャー (リア) が作動します。



注意

- ウィンドウガラスが乾いている状態でワイパーを作動させると、ガラス表面に傷が付くおそれがあります。また、モーターの負荷が大きく損傷につながる場合があります。
- ウォッシャー液が不足していて噴射されない場合、ウォッシャーを作動させないでください。モーターが損傷する原因になります。
- ウォッシャー液は、取扱説明書に記載されている専用品または推奨品を使用してください。
- ワイパーが凍結しているときや、雪が積もっているときは、ワイパーを作動させないでください。

ライトスイッチレバー



主なライトは、ステアリングホイール右側のスイッチレバーで操作します。ライトの点灯状態は、メーターパネルの表示灯で確認できます。

消灯

車両電源がオフのとき、「0」の位置でライトが消灯します。

昼間走行灯 (デイルイト)

車両電源がオンのときは、「0」またはAUTOの位置でデイルイトが点灯します。スイッチを車幅灯またはロービームの位置にすると、デイルイトが消灯します。

車幅灯

☞位置にすると車幅灯が点灯します。

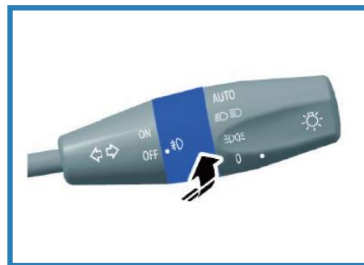
ロービーム

☞位置にするとヘッドライトロービームが点灯します。

オートライト機能

スイッチを「0」またはAUTOの位置にしておくと、車両電源がオンのときに周囲の明るさに合わせて車幅灯とヘッドライトが自動的に点灯／消灯します。

フロントフォグランプ



車幅灯またはヘッドライトの点灯中、ライトスイッチレバーのリングをON位置にすると、フロントフォグランプが点灯します。

ハイビーム

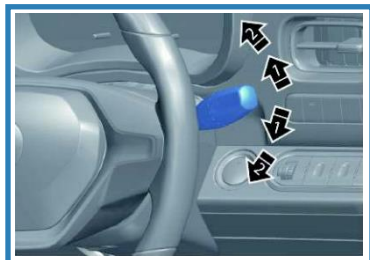


ライトスイッチが「0」、AUTO、または☞位置のいずれかるとき、スイッチレバーを前方に押しハイビームが点灯します。スイッチレバーを手前 (元の位置) に引くとロービームに切り替わります。

ヘッドライトの点滅 (パッシングライト)

ライトスイッチレバーをロービーム位置から手前に引いている間、パッシングライト (ハイビームヘッドライト) が点灯します。レバーは、手を離すと元の位置に戻り、パッシングライトが消灯します。

ターニングナル (ウインカー)



ライトスイッチレバーを上下いずれかの方向に動かすとターニングナルが作動します。

ターニングナルを作動させてステアリングホイールを回した後、ステアリングを直進状態に戻すときにライトスイッチレバーも基本位置に戻り、ターニングナルが消灯します。

ワンタッチウインカー機能

ライトスイッチレバーを上下いずれかの方向に動かし、軽い抵抗を感じる位置でレバーから手を離します。ターニングナルが数回点滅して消灯します。車線変更時などに便利な機能です。



注意

ターニングナルは、道路交通法に従って使用してください。

ヘッドライトの高さ調整



ライトコントロールスイッチのダイヤルを回すと、ヘッドライトの高さ(照射角度)を0～3の4段階で調整できます。

「0」が基本位置です。



注意

乗員の数や積荷の状態に合わせて、ヘッドライトの高さを調整してください。

リアフォグランプ



ヘッドライトの点灯中にスイッチを押すと、リアフォグランプが点灯します。

ハザードランプ



スイッチを押すとハザードランプが作動して、すべてのターンシグナルが同時に点滅します。

再度スイッチを押すとハザードランプが停止します。

シートポジション (正しい運転姿勢)

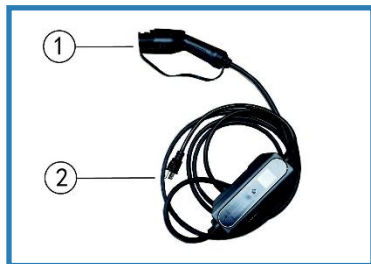
正しい姿勢で運転することは、運転中の疲労軽減につながるだけでなく、走行安全性に大きく影響します。また、シートベルトとエアバッグの保護効果を最大限に発揮するためにも正しい運転姿勢が大切です。

エアバッグは、正しい姿勢でシートベルトを着用しているときに最大の保護効果を発揮します。例えば、ステアリングホイールとの距離が近すぎる場合、エアバッグが展開したときに思わぬ衝撃を受けてケガをすることがあります。

シートの調節

1. 背筋を伸ばしてシートに深く腰掛けます。
2. ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、膝が少し曲がるようにシートの前後位置を調節します。
3. ステアリングホイールの3時と9時の位置を握ったとき、シートの背もたれから背中が離れないように背もたれの角度を調節します。
4. 正面を向いたときに運転視界が確保されているか、メーターパネルの表示を読み取れるか確認します。

充電プラグ



1. 充電プラグ
2. 充電ケーブル

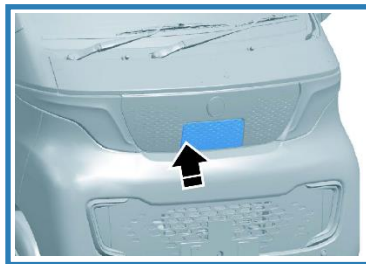
普通充電用の充電ケーブル（上図）をオプションで購入できます。ケーブルには、車両に接続するための充電プラグ、家庭用電源コンセントに接続するためのプラグ、充電制御装置が一体化しています。



高圧危険

- 充電プラグを抜き差しするときなど、充電作業者の近くにお子さまを近づけないでください。
- 濡れた手で充電プラグを抜き差ししないでください。
- ケーブルの充電プラグや車両の充電ポートに、異物や錆がないか点検してください。
- 充電プラグと充電ポートに強い力を加えないでください。

充電ポート



充電ポートはボンネットの下方に配置されています。充電ポートカバーの左側を軽く押すとカバーが開きます。

充電ポートカバーを開くと、2種類の充電ポートがあります。

- 普通充電ポート (32A 240V AC)
- 急速充電ポート (125A 750V DC)

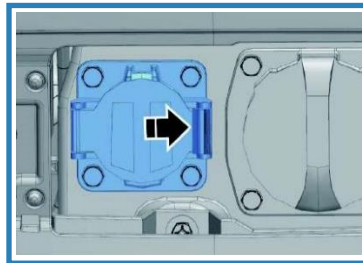
普通充電

普通充電ポートを使い、家庭用電源コンセント（100V～200Vの交流電源）から給電することができます。

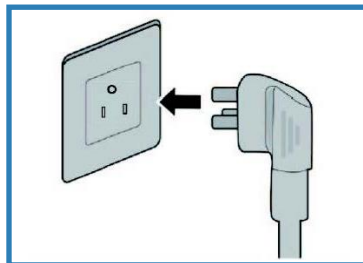
注意

- 充電中は、車が不意に動き出さないようにパーキングブレーキを確実に作動させてください。
- 充電中に車から離れるときは、必ず車両を施錠してください。

充電の手順



1. 金具を矢印方向に外して、普通充電ポートの保護カバーを開けます。



2. 充電ケーブルを家庭用電源コンセントに差し込みます。ケーブルの電源表示灯が点灯します。



3. 充電プラグのボタンを押して、車両の普通充電ポートに接続します。接続すると、ケーブルの電源表示灯が点滅に切り替わります。また、メーターパネルの充電接続表示灯が点灯します。

4. 充電中は、メーターパネルに充電状況が表示されます。



車両電源がオンのときの表示例

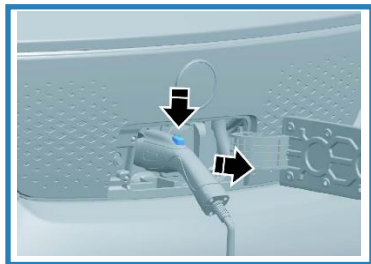
メーターパネルの充電表示灯が点灯します。



車両電源がオフのときの表示例

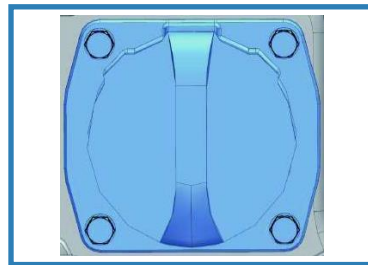
メーターパネルの充電表示灯が点灯します。


充電の停止



1. 車両を解錠します。
2. 充電プラグのボタンを押して、充電ポートからケーブルを抜きます。
3. 家庭用電源コンセントから充電ケーブルを抜きます。
4. 充電ポートの保護カバーを閉めます。
5. 充電ポートカバーを閉めます。
6. 充電ケーブルを車内の所定の場所に保管します。

急速充電

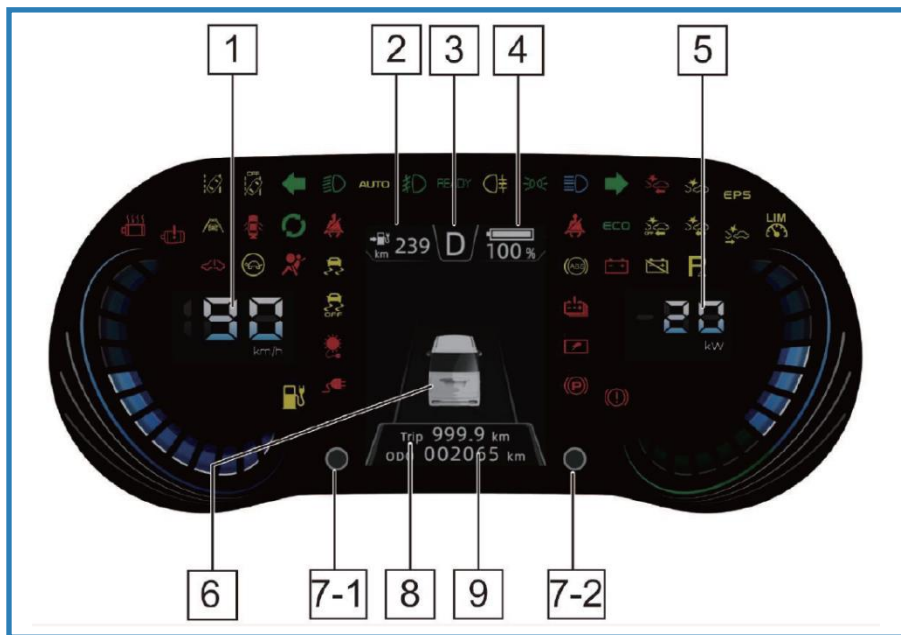


1. 急速充電ポートの保護カバーを開けます。
2. 急速充電ポートに、充電ステーションに設置してある充電ケーブルを接続します。
3. 充電ステーションの操作指示に従って充電を開始します。メーターパネルの充電接続表示灯  が点灯します。
4. 充電中は、メーターパネルに充電状況が表示されます。
注: メーターパネルの表示例は、15ページの図を参照してください。
 - 車両電源がオンのときの表示例
 - 車両電源がオフのときの表示例
5. 充電が完了したら、充電ケーブルを抜きます。
6. 充電ポートの保護カバーを閉めます。
7. 充電ポートカバーを閉めます。













































高圧危険

- 充電ステーションの給電規格が、車両の急速充電の規格に合致していることを確認してから充電を行ってください。
- 充電ステーションの係員の指示に従ってください。



1. スピードメーター
2. 航続可能距離
(無充電で走行できる距離)
3. シフトポジション
(P、N、R、D、E)
4. バッテリーの残量
5. ドライブシステムの現在の消費電力
6. 車両情報
(車両の状態や故障表示など)
- 7-1. 「確認」キー
- 7-2. 「戻る」キー
8. トリップメーター (区間距離計)
9. オドメーター (積算距離計)

メーターパネルの表示灯／警告灯

表示灯／警告灯	機能	表示灯／警告灯	機能	表示灯／警告灯	機能
	ターンシグナル、左が作動		先行車発進通知機能の作動中に点滅		モーターシステム故障
	ターンシグナル、右が作動		前方衝突被害軽減ブレーキ機能の作動中に点滅		絶縁システム故障
	車幅灯が点灯		EPS故障時に点滅または点灯		モーター出力制限
	ヘッドライト、ロービームが点灯		ブレーキ液不足またはブレーキシステム故障		動力バッテリー遮断
	ヘッドライト、ハイビームが点灯		Pギア故障		助手席シートベルト着用警告
	フロントフォグランプが点灯		パーキングブレーキ作動		ドアオープン警告 (半ドア警告)
	リアフォグランプが点灯		エアバッグシステム故障		ドライブシステム故障
	停車状態から発進可能		運転席シートベルト着用警告		低電圧システム故障
	回生機能が作動		ABS／ブレーキシステム故障		動力バッテリー故障
	エコモードがオン		ESC作動中に点滅、ESC故障時は常時点灯		充電ケーブル接続時に点灯
	オートライト機能がオン		ESC機能がオフ		モーターシステム過熱
	AEBS機能の作動中に点滅		衝突被害軽減ブレーキ機能がオフ		ソーラー充電故障
	車線逸脱警報がオフ		AEBS機能が故障		スピードリミッター
	車線逸脱警報の作動中に点滅、故障時は常時点灯		後方衝突被害軽減ブレーキ機能の作動中に点滅		充電中に点灯

車両電源オンと発進



ライトコントロールスイッチの左横にスタートスイッチが配置されています。車内でリモコンキーが検知されると、スタートスイッチを使うことができます。

スタートスイッチを押すと、車両電源のオンとオフが交互に切り替わります。

オフのときにブレーキペダルを踏んでスタートスイッチを押すと、メーターパネルの **READY** が点灯して走行可能な状態になります。



警告

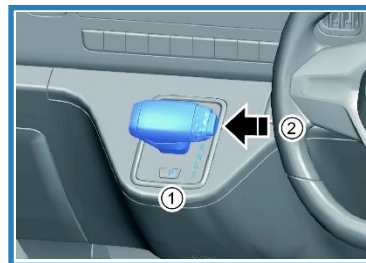
運転中はスタートスイッチを押さないでください。車両電源がオフになると、走行に影響を与える各種システムが作動しないため危険です。

車両電源がオンにならないとき

スタートスイッチを押したときに警報音が鳴り、メーターパネルに「有効なカギが見つかりません」のメッセージが表示されます。

このメッセージは、車内にリモコンキーがないか、またはリモコンキーの電池が消耗していることを示しています。

ギアセクターレバーの操作



1. Pギアスイッチ
2. レバーのロック解除ボタン



注意

- ギアセクターレバーは、ドアを閉めてシートベルトを着用した後に操作できます。
- ギアセクターレバーを操作したときは、メーターパネルのシフトポジション表示を確認してください。

P (パーキング)

駐車時の位置です。車両電源がオンのときに、パーキングブレーキペダルを踏んで駐車した後、Pギアスイッチを押します。メーターパネルに「P」が表示されます。

知 識

車両電源がオフになると、自動的にPギアに切り替わります。



注 意

駐車時は必ずパーキングブレーキをかけてください。また、信号待ちなどでPギアにしてブレーキペダルから足を離れた状態を維持しないでください。

Pギアだけで車両の静止状態を保持すると、ドライブシステムが破損するおそれがあります。

R (リバース)

後退時の位置です。

READY のときに、ブレーキペダルを踏んでギアセクターレバーのロック解除ボタンを押してから、レバーをRギア位置にします。



注 意

完全に停車した状態でRギアに切り替えてください。

N (ニュートラル)

ドライブシステムの動力が伝わらない位置です。

Pギア位置のとき：ブレーキペダルを踏みながら、ロック解除ボタンを押して車両前方側の軽く抵抗を感じる位置に1回スライドさせます。

Dギア位置もしくはEギア位置のとき：車両前方側の軽く抵抗を感じる位置でしばらく保持します。

Rギア位置のとき：車両後方側の軽く抵抗を感じる位置でしばらく保持します。



注 意

走行中はN位置を選択しないでください。

D (ドライブ)

前進時の位置です。

READY のときに、ブレーキペダルを踏んでギアセクターレバーのロック解除ボタンを押してから、レバーをDギア位置にします。

E (エコモード)

ギアセクターレバーをDギア位置からさらに手前に動かすと、Eギアに切り替わります。メーターパネルの ECO が点灯します。


クリープ機能

READY でシフトポジションがD/E/Rギアのいずれかにあり、ブレーキペダルから足を離すと低速で車が動きます。

ブレーキペダルを踏むと、クリープ機能が解除されます。

リンプモード

ドライブシステムの電子制御ユニットが故障した場合、リンプモードが実行されます。

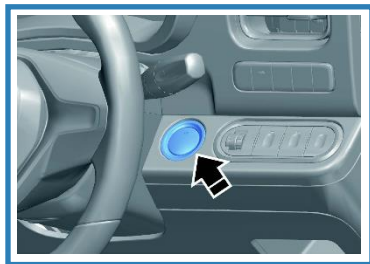
車を動かすことはできますが、モーター出力が大幅に制限されます。モーター出力制限の警告灯  が点灯します。



注 意

電子制御ユニットの故障状況によっては、車を動かすことができません。

車両電源オフ



1. 車両を完全に静止させます。
2. ブレーキペダルを踏み、Pギアスイッチを押します。
3. パーキングブレーキペダルを踏んで、パーキングブレーキを確実に作動させます。
4. ブレーキペダルから足を離してスタートスイッチを押すと、車両電源がオフになります。

強制シャットオフ

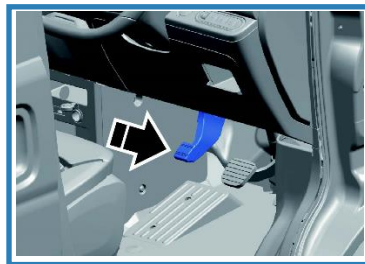
通常の操作で車両電源がオフにならない場合、スタートスイッチを2秒以内に3回連続で押します。これで車両電源が強制的にオフになります。



警告

- 走行中は車両電源をオフにしないでください。車両電源がオフになると、ブレーキとステアリングのパワーアシストが失われます。
- 走行中に強制シャットオフを行うと、ブレーキペダルとステアリングホイールの操作に大きな力が必要です。緊急の場面では、可能な限り減速してから強制シャットオフを行ってください。

パーキングブレーキ



この車は、足踏み式のパーキングブレーキを装備しています。左足の位置に、パーキングブレーキペダルがあります。

ペダルを踏むとパーキングブレーキがかかり、メーターパネルの表示灯 (P) が点灯します。

再度ペダルを踏み込むと、パーキングブレーキが解除されてメーターパネルの表示灯が消灯します。

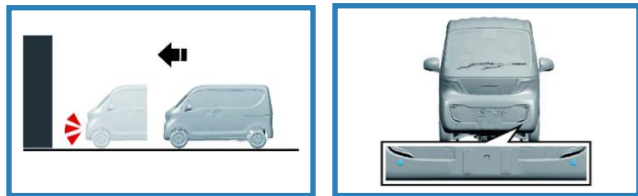


注意

- パーキングブレーキは停車中に操作してください。
- 駐車時は必ずパーキングブレーキをかけてください。
- ブレーキペダルを踏んだ状態で、パーキングブレーキを操作してください。坂道などで停車中にパーキングブレーキを解除すると、車が動き出して危険です。

駐車アシスト

障害物警報機能 (前方)



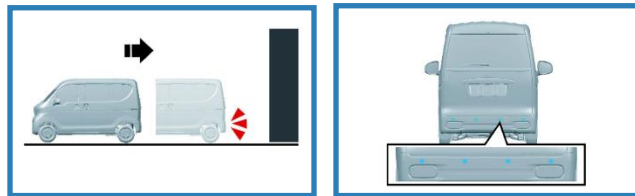
シフトポジションがD/Eギアのとき、速度が約10km/h未満になるとフロントバンパーの2個の超音波センサーが自動的にオンになります。

障害物を検知すると警告音が鳴ります。

障害物との距離が近づくにつれて、警告音の鳴り方が変化します。

警告の段階	障害物との距離	警告音
レベル0	約150cm超	警告音なし
レベル1	約100cm超、約150cm以下	短く鳴る
レベル2	約40cm超、約100cm以下	早く鳴る
レベル3	約40cm以下	長く鳴る

障害物警報機能 (後方)



シフトポジションがRギアのとき、速度が約10km/h未満になるとリアバンパーの4個の超音波センサーが自動的にオンになります。

障害物を検知すると警告音が鳴ります。

障害物との距離が近づくにつれて、警告音の鳴り方が変化します。

注意

- 超音波センサーに汚れや水滴が付着すると、障害物を正しく検知できなくなります。
- 超音波センサーは、車両側方の障害物を検知しません。直進しない場合は注意してください。
- このシステムは運転を支援するものであり、安全確認と運転の責任はドライバーが負います。

駐車アシストのメーター表示



フロント／リア超音波センサーがオンになると、メーターパネルに警告が表示されます。

障害物の検知範囲は、上図のように6つの領域に分かれています。この表示によって、障害物の位置と距離を知ることができます。

知 識

駐車アシストは、以下の特性があります。

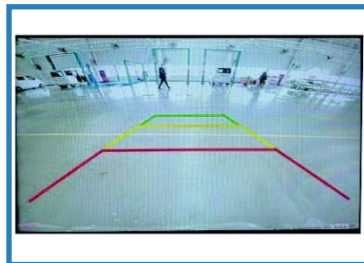
超音波センサーが検知できない障害物

- 布や雪など、電波を吸収する素材
- 細い棒など鋭利な物体
- 路上の突起など、背が低い物体

超音波センサーが正常に機能しない状況

- 汚れや水滴、雪などの付着
- センサー表面にステッカーを貼るなど、覆われている
- 大きな音、超音波を発する物体がある
- 悪路、非舗装路、強い傾斜路を走行している

バックカメラ



この車は、後退時の運転を支援するためのカメラを備えています。自車の後方のカメラ映像を画面に映します。

シフトポジションをR位置にすると、バックカメラが自動的にオンになります。R以外の位置にするとオフになります。

映像にはガイド線が重ねて表示されます。ガイド線は、ステアリングホイールの操作に合わせて車両の予想進路に向きを変えるため、後退時の運転操作が容易になります。



注 意


このシステムは運転を支援するものであり、安全確認と運転の責任はドライバーが負います。


車両接近通報装置

車両の接近を、歩行者や自転車などに知らせるための装置です。
速度が約20km/h未満で走行中、疑似走行音を発して注意を促します。

走行安定制御（ESC）

ESCは、電子制御により走行姿勢を安定させるアクティブセーフティ機能です。

ドライバーの運転操作と車両の走行姿勢にズレが生じると作動します。ESCは、4輪のブレーキを独立制御して、アンダーステアやオーバーステアと呼ばれる不安定な走行姿勢を抑制します。ESCが作動すると、メーターパネルのESC警告灯が点滅します。

車両電源がオンになるとESCが機能の自己診断を行います。このときESC警告灯が数秒間点灯し、診断結果が正常であれば消灯します。

ESC警告灯が消灯しない場合、ESCが正常に機能しないおそれがあります。運転の続行は可能ですが、走行安定性が損なわれている可能性があるため速やかに点検を依頼してください。




警告

ESCは、ドライバーの運転を支援して走行安定性を維持しますが、機能には限界があります。安全運転はドライバーの責任です。

ESCオフスイッチ



ESCオフスイッチは、マルチファンクションスイッチに組み込まれています。スイッチを押すとESCがオフになり、メーターパネルのESCオフ表示灯が点灯します。スイッチを再度押すとESCがオンになり、表示灯が消灯します。



警告

通常はESCをオフにしないでください。

知識

以下のような特別な状況では、ESCをオフにすると走行性能を高めることができる場合もあります。


- スノーチェーン装着時
- 積雪やぬかるみなど、滑りやすい路面
- スタック状態からの脱出時

これらの状況が解消されたら、速やかにESCをオンにしてください。

電動パワーステアリング (EPS)

この車は、電動式のパワーステアリングを備えています。


ステアリング機構に電気モーターが組み込まれており、走行速度、ステアリングホイールの回転角度、ステアリングホイールの操作力に応じてパワーアシストを行います。

EPSの異常が検出されると、メーターパネルのEPS警告灯  が点灯します。

アンチロックブレーキシステム (ABS)

急制動時や、滑りやすい路面でブレーキをかけたときのホイールロックを防ぐ装置です。

ABSの作動によって、急ブレーキをかけたままステアリングを操作して危険を回避することや、後輪のロックで車両がスピンするリスクを低減できます。

車両電源がオンになるとABSが機能の自己診断を行います。このときABS警告灯  が数秒間点灯し、診断結果が正常であれば消灯します。

ABS警告灯が消灯しない場合、ABSが正常に機能しないおそれがあります。運転の続行は可能ですが、速やかに点検を依頼してください。



警告

ABSの機能には限界があります。安全運転はドライバーの責任です。



注意

急制動時はブレーキペダルを強く踏み込み、停車するか安全な速度になるまでペダル踏力を弱めないでください。


知識

ABSが作動すると、車体やブレーキペダルに振動を感じたり、断続的な音が聞こえます。これはABSがブレーキ油圧を調整するときの正常な現象です。

制動力配分機能 (EBD)

ブレーキペダルを踏んで制動したときのブレーキ油圧を4輪に適切に配分するための機能です。この機能により、荷物の積載状態や走行条件に応じた制動力の配分が行われて車両の安定性を確保します。

センサーが4本のタイヤの接地力を個別に感知します。このセンサー情報をもとに制御装置が最適な制動力配分を計算します。

EBDに異常があるとメーターパネルのABS警告灯  が点灯します。

ヒルスタートアシスト (坂道発進サポート)

坂道での発進時、車両が思わぬ方向に動き出さないように静止させる機能です。

シフトポジションがD/Eギアの場合は上り坂、Rギアの場合は下り坂で作動します。

ドライバーがブレーキペダルから足を離した後、数秒間、車両がずり下がらないように保持します。



警告


ヒルスタートアシストは、パーキングブレーキの代わりではありません。




注意

- ヒルスタートアシストは、モーターの力で車のずり下がりを防ぐ機能です。ただし機能の特性上、作動時にわずかに車が動くことがあります。
- 急傾斜の坂道では、ヒルスタートアシストが作動しても車両が思わぬ方向に動くことがあります。

前方衝突被害軽減ブレーキ (AEBS)

カメラとミリ波レーダーで先行車と歩行者を検知し、衝突の可能性があると認識したときは警告音とメーターパネルの衝突被害軽減ブレーキ作動表示灯 (黄色)  の点滅でドライバーに危険を知らせます。

この通知にドライバーが反応せず、衝突の危険が切迫すると、自動的にブレーキをかけます。このとき衝突被害軽減ブレーキ作動表示灯 (赤色)  が点滅します。

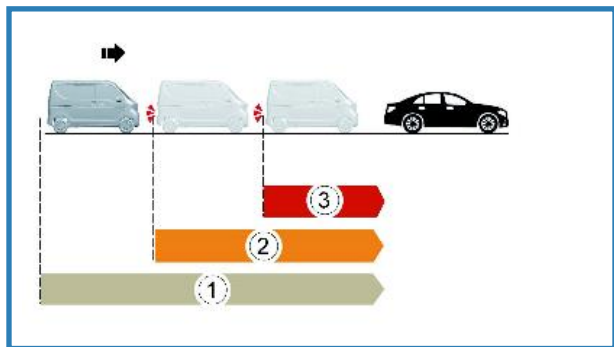
ドライバーがブレーキペダルを踏むと、AEBSの制御が中断されます。



警告

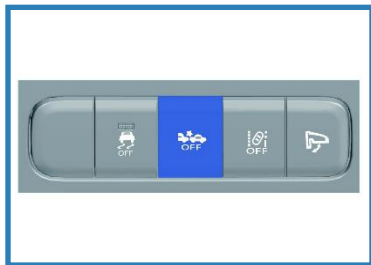
- AEBSが作動すると、減速により衝突時の被害を軽減することはできませんが、衝突を回避できない場合があります。また、先行車や歩行者の検知には機能の限界があり、すべての状況で検知することはできません。安全運転はドライバーの責任です。
- AEBSの衝突被害軽減ブレーキが作動した場合も、停車後の静止状態を保持したいときはブレーキペダルを踏んでください。


AEBSに異常があると、AEBS故障警告灯  が点灯します。



1. AEBSが危険を認識してドライバーに通知
2. 衝突被害軽減ブレーキで減速
3. 最大の制動力で衝突被害を軽減

衝突被害軽減ブレーキオフスイッチ



衝突被害軽減ブレーキオフスイッチは、マルチファンクションスイッチに組み込まれています。スイッチを2回押すと衝突被害軽減ブレーキ機能がオフになり、メーターパネルの表示灯  が点灯します。スイッチを再度押すと衝突被害軽減ブレーキ機能がオンになり、表示灯が消灯します。

後方衝突被害軽減ブレーキ

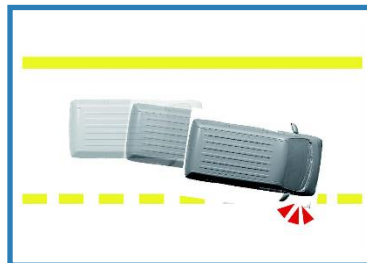
後退中、車両後方の障害物に衝突する危険があると認識したとき、自動的にブレーキをかける機能です。




警告


後方衝突被害軽減ブレーキが作動すると、減速により衝突時の被害を軽減することはできますが、衝突を回避できない場合があります。また、障害物の検知には機能の限界があり、すべての状況で検知することはできません。安全運転はドライバーの責任です。

車線逸脱警報



前進走行中はカメラが前方の走行区分線（車線）を検出します。

ターンシグナル（ウインカー）が作動していないにもかかわらず、車が走行区分線を逸脱しようになった場合、警告音とメーターパネルの警告灯  の点滅でドライバーに危険を知らせます。

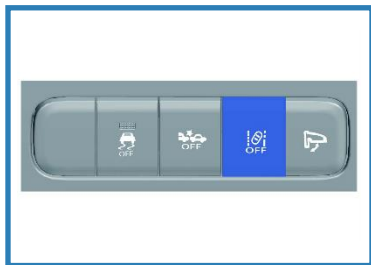
車線逸脱警報に異常があると、警告灯  が点灯します。




注意

車線逸脱警報は、自車の左右両側の走行区分線（車線）を検出します。走行区分線を明瞭に検出できないときは機能が作動しません。

車線逸脱警報オフスイッチ



車線逸脱警報オフスイッチは、マルチファンクションスイッチに組み込まれています。スイッチを押すと機能がオフになり、メーターパネルの表示灯  が点灯します。スイッチを再度押すと機能がオンになり、表示灯が消灯します。

自走事故防止機能

車両が **READY** の状態で、シフトポジションがD/E/Rギアのとき、運転席シートベルトを外してドアを開けると、自動的にPギアに切り替わります。

運転席と助手席のドアを閉めて、ドライバーがシートベルトを着用した後、ギアセレクターレバーの操作が可能になります。



注 意

この機能はドライバーの運転を支援するものであり、駐車時は必ずギアセレクターレバーの操作でPギアに切り替えてください。

マルチインフォメーションディスプレイの法規制に関する情報

技術基準適合証明に関する情報はデバイス上で参照できます。

「設定」>「カーインフォテイメント」と選択し、「端末情報」をタップします。

取扱説明書について

取扱説明書はこちらから参照できます。

パスワードは「asf050v」です。



お問い合わせ

ASF2.0の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げいただきました販売店もしくはASFカスタマーセンターへお問い合わせください。

ASFカスタマーセンター

TEL : 0120-233-445 （受付時間:9:00～18:00）

お問い合わせ・ご相談内容につきましては、お客さま対応や品質向上のために記録し活用させていただいております。

ASF2.0のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意いただくと、スムーズな対応が可能となります。

ASF株式会社

〒101-0047

東京都千代田区内神田3丁目2番3号 IM内神田ビル 11階